

DATA FILE



名前	CACOXENITE (カコクセナイト) / カコクセン石
化学組成	$AlFe^{3+}_{24}O_6(OH)_{12}(PO_4)_{17} \cdot 75H_2O$
色	褐色、金色
光沢	亜ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	黄褐色
劈開	なし
断口	不平坦
硬度	3 ~ 4
比重	2.3

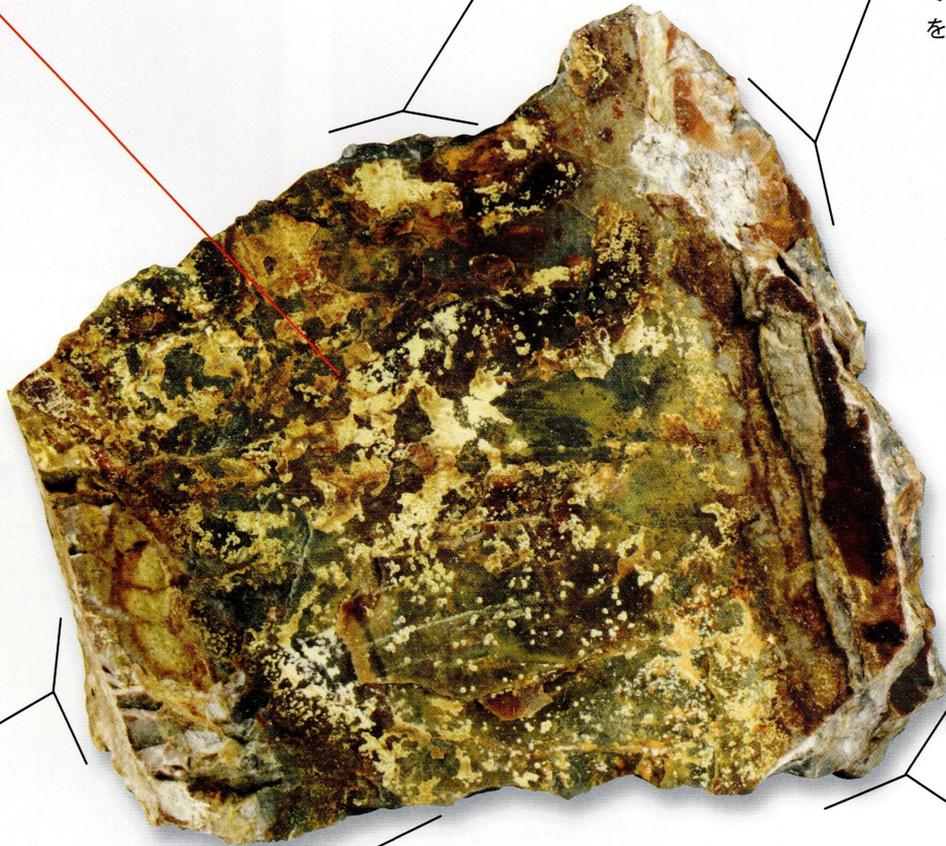
カコクセン石

CACOXENITE

もともと存在していたリン酸塩鉱物の変質によって、二次鉱物として生成する。

結晶は褐色や金色で、亜ガラス光沢を持つ。

岐阜県大垣市赤坂で産出したカコクセン石。



劈開はないが、ハンマーでたたくと不平坦な断口を示す。

素焼きの陶板にこすりつけると黄褐色の条痕が残る。

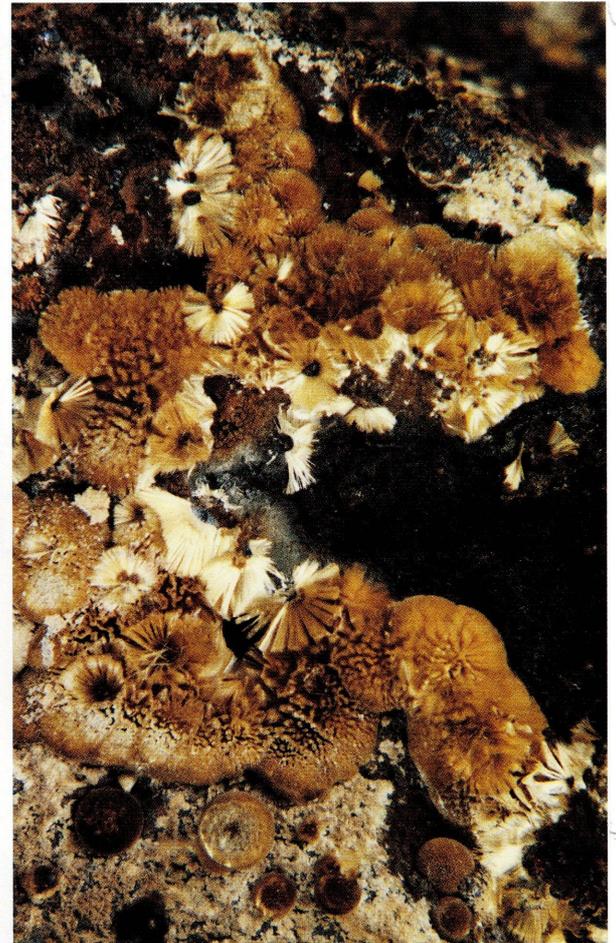
赤鉄鉱や褐鉄鉱、銀星石などと共生する。



カ カ コ ク セ ン 石

リン酸塩の二次鉱物

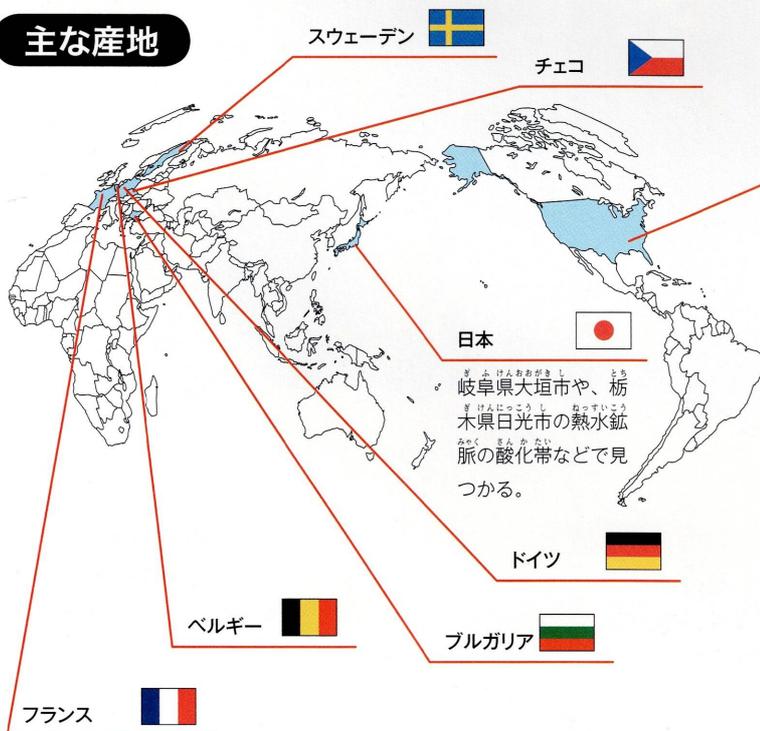
1825年にチェコのボヘミア地方にあるルベク鉱山で初めて発見され、その翌年に独立種と認められたカコクセン石は、もともと存在していたリン酸塩鉱物の変質によって生成する二次鉱物で、赤鉄鉱や褐鉄鉱のような鉄を含む鉱物と共生していることが多い。色は褐色や金色で、結晶は微細な六角針状結晶が緻密に集まった放射状、繊維状、房状などの集塊であられる。黄色い鉄みょうばん石や、粉状や皮膜状の褐鉄鉱と外見がよく似ているため、肉眼では区別しにくいことがある。



▲母岩に放射状の集合体で生成したカコクセン石。

◀金色で垂ガラス光沢を示すカコクセン石。

主な産地



岐阜県大垣市や、栃木県日光市の熱水鉱脈の酸化帯などで見つかるといわれる。

アーカンソー州やニューハンプシャー州、ニューヨーク州、テネシー州などで産する。

鉱物名の由来

カコクセン石は、赤鉄鉱や褐鉄鉱などの鉄鉱石を含む鉱床中で見られることが多いが、リン酸基を含むため周囲の鉄鉱石の強度を低下させてしまい、鉄鉱石そのものの価値を下げってしまう。そのため、「カコクセン石」という名称は、「悪い客」を意味するギリシャ語を語源として名づけられた。